

小規模事業者

経済動向調査報告書

<那珂市>

2021年7月～9月期

那珂市商工会

1. 目的

那珂市内の小規模事業者の景気動向等を分析し、その詳細な実態を把握し、市内小規模事業者に開示することで、経営に活用していただく。

2. 方法

市内の製造業、建設業、小売業（卸売業を含む）及びサービス業の小規模事業者から約 15 社をサンプルとして選出し、聞き取り調査を行う。

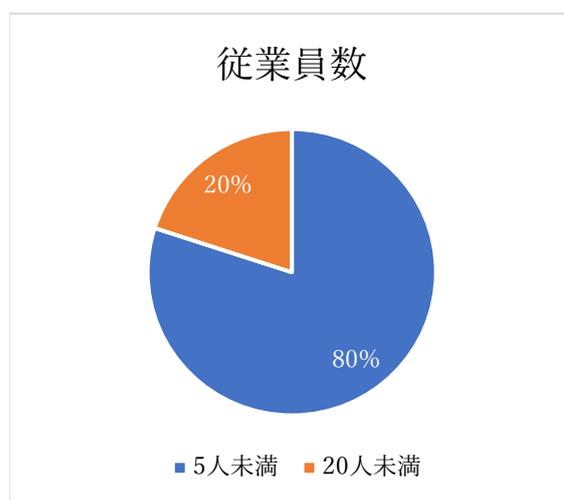
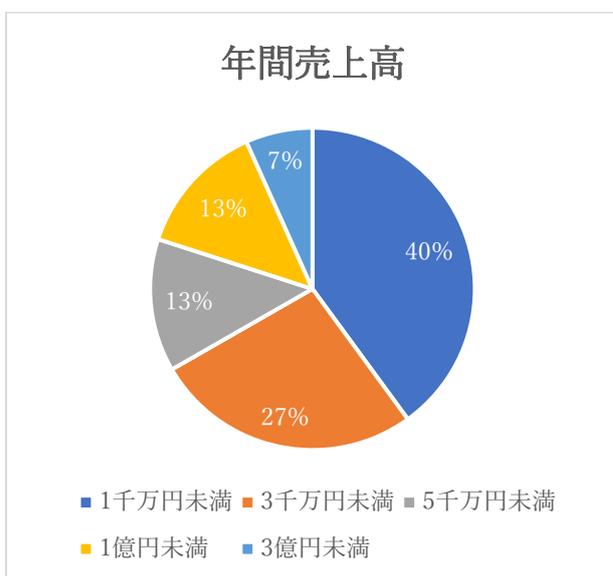
3. 調査事業者

- | | |
|---------------|-----|
| ① 製造業 | 3 社 |
| ② 建設業 | 2 社 |
| ③ 小売業（卸売業を含む） | 4 社 |
| ④ サービス業 | 6 社 |

4. 調査項目

- ① 売上高、販売単価、経常利益、資金繰り、人材確保及び景況感を聴取し、業種別に比較。
- ② 現在認識している経営課題を調査。
- ③ 新型コロナウイルス感染拡大の経営への影響を調査。

5. 事業者の規模



I. DI 分析

表1：2021年7月～9月のDI

	全体	製造業	建設業	小売業	サービス業
売上高	-33.3%	0.0%	-100.0%	-25.0%	-33.3%
販売単価	-20.0%	0.0%	-100.0%	0.0%	-16.7%
経常利益	-40.0%	-66.7%	-100.0%	-25.0%	-16.7%
資金繰り	-26.7%	-33.3%	-50.0%	-25.0%	-16.7%
人材確保	-6.7%	0.0%	-50.0%	0.0%	0.0%
景況感	-40.0%	33.3%	-100.0%	-25.0%	-66.7%

- 前回（2021年4月～6月）から全体的に再び悪化が始まっている様子が窺える。新型コロナウイルスの感染が爆発的に拡大したことを反映していると推測できる。
- 建設業では再び悪化が加速化されており、厳しさを増している状況が垣間見れる。
- 製造業は売上こそ落ち着きを見せているが、それにもかかわらず、経常利益や資金繰りが悪化している。
- サービス業においては、一部に売上高、経常利益が改善している事業者もあり、明暗が分かれている。事業再構築への取組の有無が反映されていることも推測される。

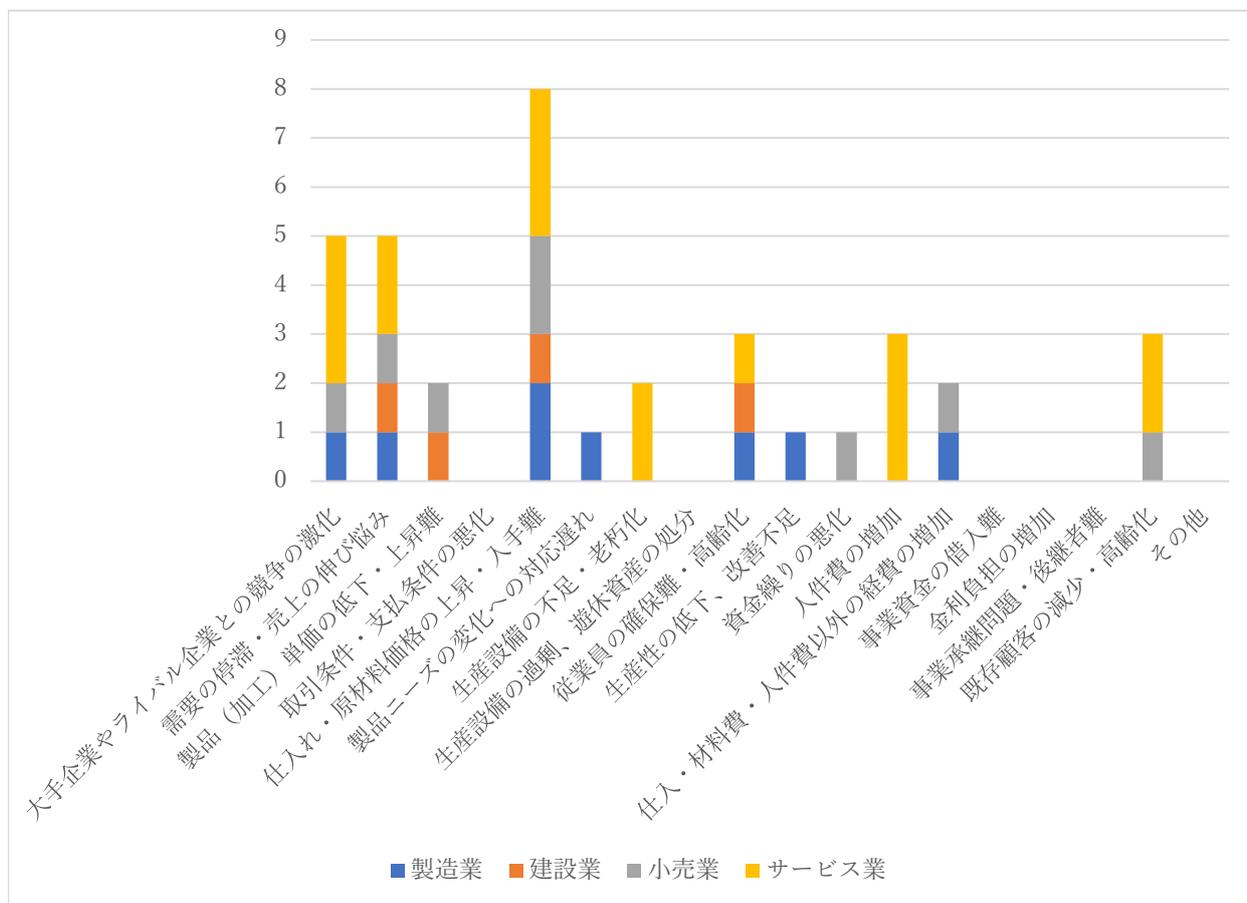
DI（業況判断指数）

景気局面の判断や、予測と景気転換点の判断に利用される景気動向指標のひとつ。業況下や景況感といった明確に数値化しにくい対象を、比較化することで景況を判定する。

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものをパーセンテージで表し、プラスは良好、マイナスは悪化として、その度合いで判定する。

II. 課題意識調査

図1 2021年7月～9月の課題意識



- 前回と比べ、競争激化、需要の低迷、単価低下の増加が目立ち、需要が低下する中、厳しい競争を強いられている様子が窺える。
- また、原材料・仕入れの問題はさらに悪化しており、あらゆる資材・商品で品薄・価格高騰を引き起こし、全業種に波及している。
- 特に、人件費の増加が顕著になっているなど、サービス業で様々な点で問題が増加している。DI値では比較的落ち着いているが、今後の推移については余談を許さない。

III. 新型コロナウイルス感染拡大の経営への影響

図2 コロナ禍による経営の悪化の推移

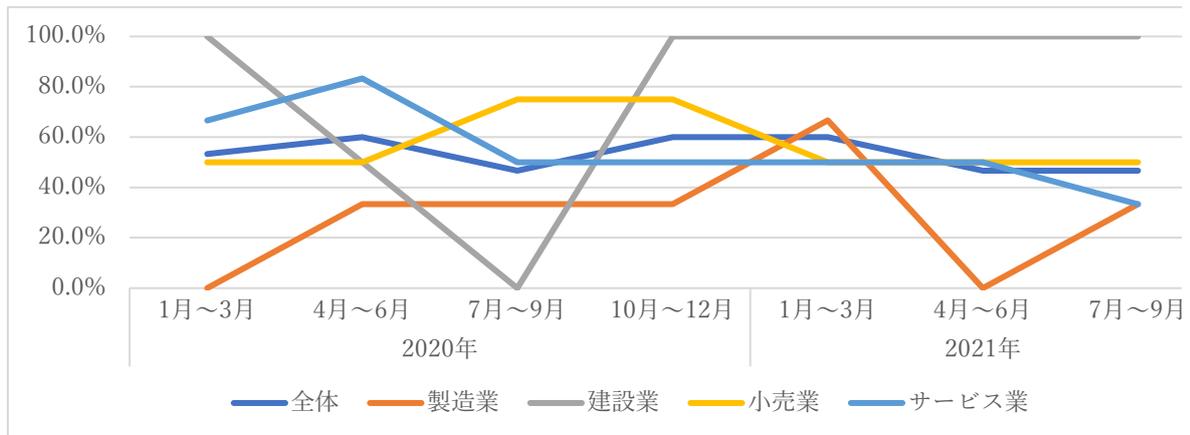
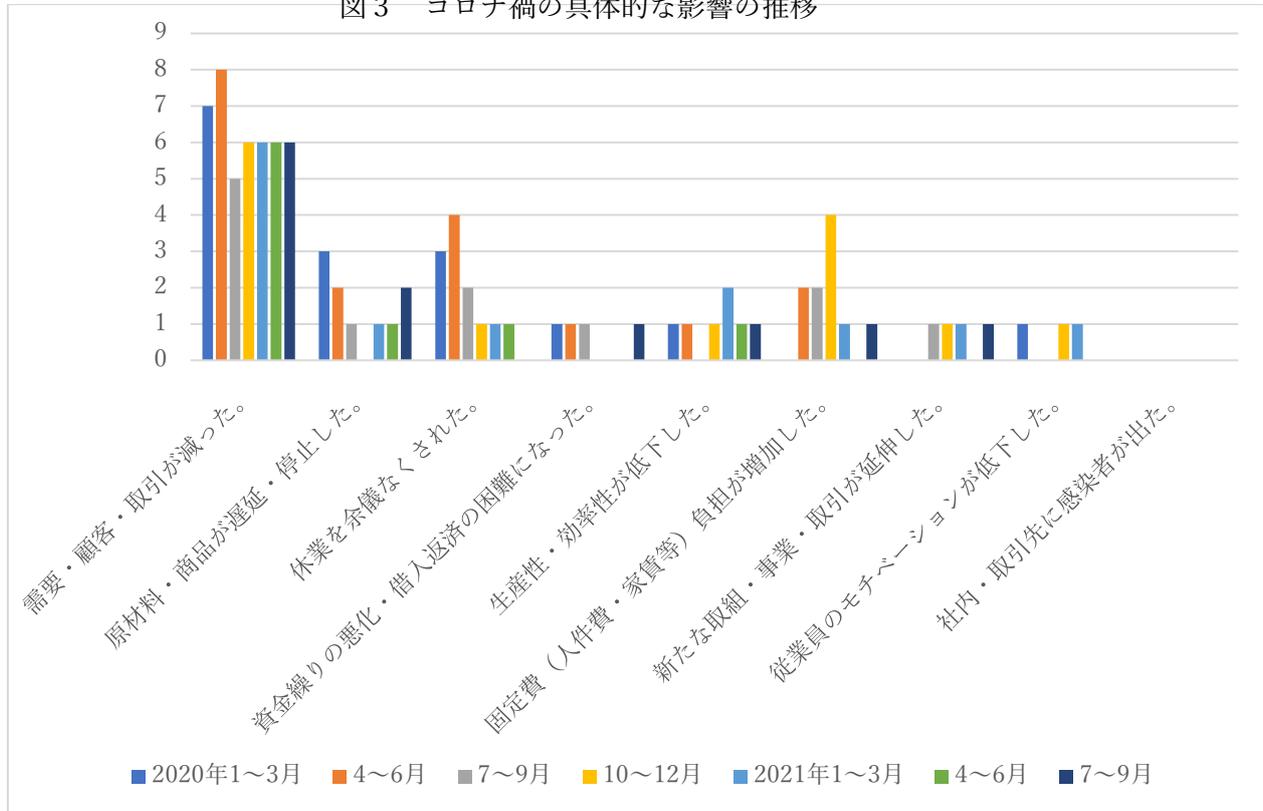


図3 コロナ禍の具体的な影響の推移



- 相変わらず建設業の厳しい状況が窺え、この業種に特化した公的支援の必要性を痛感する。
- また製造業も再び悪化している。製造業は新型コロナウイルスの感染状況と業況が比例しており、コロナ禍に翻弄されている様子が窺える。
- 一方で、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けやすい飲食業や美容業を含むサービス業が改善されている様子も窺える。業種ピンポイントの支援策が功を奏しているとも見ることができる。
- 原材料・商品の調達、資金繰り、固定費負担、新たな取組等において問題が再燃している様子が窺え、感染が落ち着き一時事業活動を回復させた矢先に再び感染拡大したことにより改めて停滞を強いられているような、コロナ禍に翻弄されている様子がここでも垣間見れる。

以上